

1160 | 絵画 VII

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、長沢秀之教授、赤塚祐二教授、遠藤彰子教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、金子善明講師、佐々木敏講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師、吉川民仁講師

授業の概要と目標

「自主制作」。造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につなげるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。

通信授業、面接授業を通して、各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

課題の概要

○通信授業課題「自由制作」

1-1 卒業制作を念頭においた「1-2」のための構想、エスキース、アイデア、テーマ、素材、写真、雑誌の切り抜き、メモ等あらゆるものを F10 号スケッチブックに書き込み、貼り込んだ「制作ノート」を作成する。

1-2 「1-1」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作の足掛かりとなる実験的な自主制作を行う。

○面接授業課題「自由制作」

1-1 通信授業課題で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作を視野に入れ、さらに発展させたエスキースを制作する。支持体は自由（画用紙、木炭紙等）で B1 または倍判木炭紙大程度。描画材は自由。

1-2 「1-1」のエスキースをもとに自主制作を行う。支持体は自由で 40 ～ 50 号程度、描画材は自由。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成 29 年度』の「絵画Ⅶ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（制作ノート・エスキース制作）
第 2 日	午前：制作	午後：制作
第 3 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
第 4 日	午前：制作	午後：制作（平面作品）
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 「絵画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（『学生ハンドブック』p.049 の特例を除く）。

[備 考] 油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。

「絵画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「絵画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005 年）

学習指導書：『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）